

1990 今月の一笑 春眠暁を覚えず。

3 月

「早く起きなさい。何時だと思ってるの」

「いい感じ、だよ」

~~~~~  
暫くお休み致しておりました。ようやく、再開致します。

まずは、幾つかの連絡をさせていただきます。

1. 同巢会は故山下氏等12名の発起人と一般会員十数名が自主運営を行う会として、昨年5月に発足し、各々の会員が各自の趣味や勉強の場として利用するというものであります。伝笑鳩を皆様にお送りしておりますジョークの会も、その同巢会の活動の一環として毎月第4金曜日に会合を開催しております。従いまして、ジョークの会は同巢会の一部ということ、まずご理解くださいますようお願い致します。

2. 山下氏はその同巢会の代表でしたが、後任には五十嵐有爾氏が選ばれました。

3. ジョークの会は引き続き毎月第4金曜日に会合を開催し、会報である伝笑鳩を皆様のもとへお送り致しますが、当会の後見人（或いは幹事代表）を発起人の一人であり、且つ山下氏と40年近く一緒に勤務された杉本恭之助氏が引受けて頂くこととなりました。現在の幹事連を改めて紹介致しますと

代表幹事鳥：杉本恭之助、幹事鳥：野本浩一、河内幾久江 となっております。

4. 毎月第4金曜日の会合は18:30 頃から21:00迄、同巢会事務所があります神田小川町の日米商会ビル7階にて実施中ですが、参加の皆様と軽い夕食を共にしながら、近況報告やら最新のジョーク・駄洒落やらを披露しつつ、お互いがユーモアマインドの研鑽に励むというものであります。参加費は会場費・食費・伝笑鳩カンパ等を合わせて3千円弱であります。関東近県の方、或いはご出張で来られる方の参加をお待ち致しております。今後、参加できる方はご一報下さい。

5. 伝笑鳩はこれからも皆様の巢のある方へジョークを運んで行きます。皆様の返信にも是非楽しい話を書いて下さい。出来る限りご紹介させていただきます。

以上のような次第にて、山下氏の遺志を引き継いでいく方針です。

ご賛同をお願い致します。

再開に当たり、昨年末から今日迄に届いております幾つかのお便りを笑介します。

まず、ジョークの会の常連である辛口コメンテーターの井上葉智さんからであります。

「・・・あなたも私も君も僕も山の下に集い

脇目をせずに登るジョークの同志！」

8月24日、お招きを受け心踊らせて同巢会に初参加した私はこんな詩を持参した。月1回、見知らぬ人との出会いは新鮮で楽しかった。殊に、山下塾鳥のニコヤカでゆったりしたお人柄に親しみを覚えました。出会いは直感で決まります。2回目の9月21日「ビジネスはジョークで始まる」の本を頂きまして、山下さんは「はっとするよなジョークです。ちのなひらめき楽しいな」のサインをくださった。私の名前は葉智（ようち）と呼んでおりましたが、それ以来、ハチさんの愛称で呼ばれ嬉しく感じました。塾鳥の「ジョークは肩の力を抜いて・・・」のお言葉を肝に銘じ、お心に添えるよう、未熟な鳥は羽ばたきま

す。 合掌 (1989.12)

曾田英夫さんは、「ユーモアについて」という短文の中で山下さんに寄せています。  
「・・・山下さんは残念ながら昨年12月、この世を去られたが、天国でエンマを笑わせて  
おられることと思っています。今はココロの時代、幸せを求める時代。笑う事は幸せ、笑  
える事も幸せ。笑顔にまさる化粧なし。・・・山下さんとお会いしたのは一度だけですが  
大いに影響を受けたし、同じビジネスマンであってユーモアの中に生きてこられた事に尊  
敬の念を抱いています。・・・」(1990.2)

僅か一度だけの出会いだったのですが、印象深く覚えられておられる方が多いのは、や  
はり山下さんの人徳だと思います。

山下さんと電話で話し、ジョークの会での会見を約束されておられた大石要さんは、日  
程が調整つかず、結局会わず終いでしたが、「・・・山下氏の件、全く驚きました。お元  
気なお顔を拝眉する事を楽しみにしておりましたが、本当に残念です。・・・気を取り直  
し、山下氏の為にも頑張りましょう」と、激励を送って下さいました。(1989.12)

では、ジョークの会の雰囲気のある追悼文を最後に披露させて頂くこととします。  
山下さん譲りの語り口です。

山下さんを偲んで

やました            さんした  
山下さん 山下さん  
心筋梗塞だ何茶亭  
天国に行っ茶亭  
師走だからといったって  
師匠が走って行っちゃうと  
困るぞ ひどいぞ 広蔵さん  
親鳥帰らぬ同巢会  
気楽にやれよと言われても  
同巢会をどうしようかい  
笑々 話は しめりがち  
それでもなんとか頑張って  
ジョークのねたでもさがしま笑

1989.12 芝楽(矢柴成雄)

山下さんが一番喜びそうなニュースをひとつ

第2号に登場の高石市/芝原健夫さんは  
「ダジャレでボケ防止を——という目的で開催  
された「シルバーダジャレ教室」で活躍されてお  
られるとの事で、その活躍ぶりを伝えるコピーが  
送られて来ました。

洒落、或いはジョークの巢が沢山できる事が嬉  
しい事です。

「シルバーダジャレ教室」は今後も開催がある  
と思いますので、連絡先を紹介します。

㊟550 大阪市西区北堀江1-15-11 第2 川辺ビル203  
関西健康開発協会 TEL06-532-2219

その中から、    だ    だんなさん  
                      じ    じぶんだけ  
                      ゃ    やすみの日には  
                      れ    レジャーする

今回の最後は、日経新聞のインタビュー(1986.3.23朝刊)からです。

・・・ジョークの効用を山下さんはこう語る。「周囲を明るくさせ、人間関係がうまく  
いくし、自分も笑うことでやる気が出る。こんないいことはないですよ」そして「人を見  
下したところからジョークは出ない。たくまらずしてけんそんにつながるようなジョークが  
言えるようになりたい」とも。・・・

山下さんらしい言葉だ、と思います。

(文責:野本浩一)